

北京原人のふるさと周口店の丘

中 嶋 輝 允 (鉱床部)
Terumasa NAKAJIMA

日中戦争の発端となった場所として知られる北京郊外の盧溝橋を渡って車で約1時間 北京原人に有名な周口店は 華北平原が切れて なんの変哲もない丘陵地に突き当たった所であった。石灰岩からなる丘は比高50m足らず その山頂に立つとかつて原人もここから平原を眺めて暮らしていたのであろうかと遠い人類の祖先の生活に思いが馳せられる。

1921年以來のアンダーソンとズダンスキーの周口店の発掘と少年原人の歯の発見を契機として 1927年から中国地質調査所と協和医学院によって ロックフェラー財団の援助のもとに本格的な発掘が開始された。当時協和医学院教授であったブラ

ックは 再び少年の臼歯を発見し 先の歯と共に 1929年にシナントロプス・ペキネンシスと命名した。この年には 始めて北京原人の頭蓋骨も発見された。

ブラックの死後 発掘はワイデンライヒによって引き継がれ 1937年の日中戦争の開始まで続けられた。その時まで得られた原人化石は約45体分に達した。戦争勃発のため これらの標本をアメリカへ疎開させようとしていた矢先 1941年12月8日太平洋戦争が始まり まさにその日に協和医学院は日本軍によって接収された。しかし その時既に原人の標本はなかったと言われ 今なお見つかっていない。



写真1

周口店遺跡は 今では観光のためにも内部はよく整備されていて 順路に従って各発掘地点を見学することができる。発掘物の展示館や土産物店もある。展示館の女の係員は 英会話の勉強に余念がなかった。ただし まだ観光客は少ない。

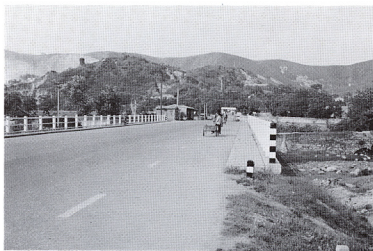


写真2

周口店、橋の向う側の2つ並んだ丘が北京原人の発掘された竜骨山。丘の中腹 橋のたもとにある家の上の方にいくつかの洞穴が見える。これらが発掘地点である。

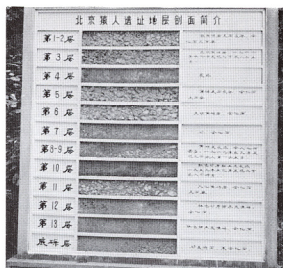


写真3 猿人洞の堆積層の説明文。1929年最初に発見された原人の頭蓋骨は第8-9層より出た。1966年には第3層からも頭蓋骨が見つかった。猿人洞の第1-2層~第13層の年代はブリューン正銀極期の23~70年前になる。第8~9層は40~45万年前の堆積層である。第13層以下はさらに第14層~第17層までありそれらは松山逆磁極期に当る。なお竜骨山の山頂付近の山頂洞からは新人の化石が発見されており山頂洞人と呼ばれる。その堆積層の年代は1~4.9万年前である。



写真4 猿人洞の堆積層。各層には地層番号を示す看板が付けられている。角礫層は大小様々の石灰岩礫からなる。



写真5 1929年に最初の北京原人頭蓋骨が発見された地点。

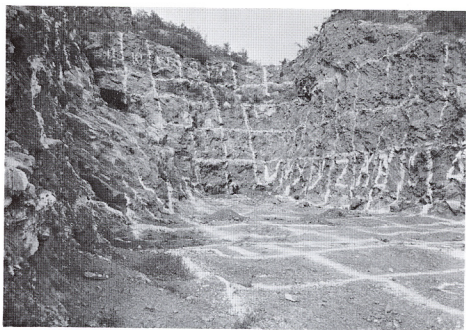


写真6 発掘現場。石灰で方眼をかき 地質と化石発掘地点を記載しながら掘り進む。左上には洞穴の一部も見える。かつての原人の住み家は時の流れと共に次第に崩壊して その中に原人の遺体や彼らが使用した遺物が埋没して行ったのである。



写真7 北京原人の化石や遺物は 動物の化石と共に石灰洞の中に堆積した角礫層や土壌の中から出てくる。いま掘り出そうとしているのは牛の骨の化石。時間をかけていかに掘る。人海戦術の国なのに意外に人が少ない。見ているとここに残ってしばらく手伝ってみたいくなる。

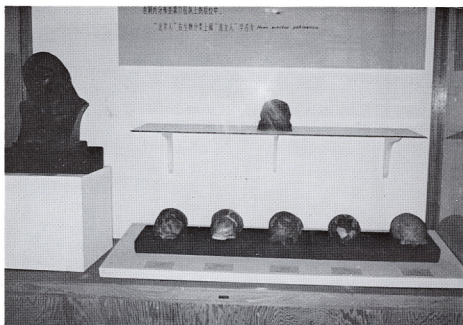


写真8 周口店遺跡展示館の北京原人頭蓋骨。中華人民共和国成立後も発掘は続けられ、多数の化石や遺物が新たに発見されている。しかし、完全にそろった頭骨の化石は、ここでもまた北京や南京の地質博物館でも見ることができなかった。

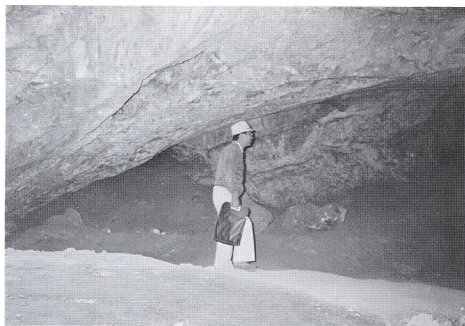


写真9 北京原人の洞穴。その広さは幅10m、奥行7mほどで、数ある洞穴のうちでも大きい方。いつか映画で見た原始人の住む洞穴にそっくり。小さなものは日本猿の住む岩山のものに似ている。もしかすると、日本でも猿山の洞穴から原人の骨が出てくるかもしれないと綿路にふと思った。